

白山ふるさと文学賞

第十一回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年 小説の部 優秀賞

「夏休みの約束」

明光小学校五年 山内 ひまり

私には昔からの親友がいる。友だちになったきつかけは、私が引っこして来たことだった。もとはアパートに住んでいたが、妹の花が産まれて家を建てることになった。そしてとなりの家に住んでいたのが、今では親友のすみれだった。私のお母さんとすみれのお母さんがすぐに仲良くなり、私とすみれも仲良くなった。近所のおばあちゃんには

「桜ちゃんと花ちゃんとすみれちゃんは、姉妹みたいに仲が良いね。名前もみんな花に関係があるわね。」

と言われるほどだ。もう花も来年から小学校に入学する。私とすみれは六年生になる。そしてすみれはこの前お姉ちゃんになった。すみれに妹が出来たからだ。名前は緑という名前だ。でもそのせいで最近すみれと遊べなくなつた。すみれの家はお金持ち、だけどお父さんもお母さんも仕事がいそがしいからすみれが緑ちゃんの世話をしている。だから遊べない。でもそれがきっかけでこんな事が起きるとはまだ思っていないかった。

今日は終業式がある。クラスのみんなは、明日から夏休みでうれしそうだ。それは私とすみれも同じだった。

「桜、明日から夏休みだね。」

とすみれが私に話しかけた。

「すみれって今週の土曜、予定ある？宿題いっしょにしよう。」

と私はさそつた。すみれは

「いいよ。その日はお母さんが休みで緑の世話してくれるから。」

と言つた。そして私たちは遊ぶ約束をした。最近緑ちゃんの世話をしているからすみれの家に行つても、ゆつくり二人で遊べない。だから私はひさしぶりにゆつくり遊べるからうれしかった。その日は図書館で宿題をすることに決まつた。待ちに待つた土曜日の朝はいつもより早くに目が覚めた。私は顔を洗つてから、朝ご飯を作り出した。私は料理と運動が得意だ。反対にすみれは勉強が得意だから今日はいっ

しょに夏休みの宿題をすることになった。準備をして、そろそろすみれも準備終わったかと思ひ、家を出た。すみれの家の、インターフォンを鳴らした。すると

「今、出ますね。」

と声が聞こえた。ドアが開くと仕事の服を着たすみれのお母さんが出て来た。

「あれ、桜ちゃんどうしたの。」

とすみれのお母さんが言つた。

「すみれと図書館で宿題する約束していて。」

すみれのお母さんは仕事休みのはず。もしかしてと思ひ、聞いてみた。「もしかして、今からお仕事ですか。」

「そうなの。急に仕事はいつてしまつて。」

と言われた。そして私は家に入らせてもらひ、すみれをさがした。すみれは朝ご飯を食べていた。

「あれ桜どうしたの。」

とすみれは言つた。

「図書館でいっしょに宿題する約束してたでしょ。わすれてたの。」

と私は少しおこり口調で言つた。

「ごめん。わすれてた。今日、お母さん仕事になつちやつたから私の家で宿題しよう。」

そうすみれは言つた。でもつい私は、

「私は図書館でいっしょに宿題をするの楽しみにしてたのに。緑ちゃんいるから集中出来ないじゃん。」

とカツとなつて言つてしまった。すみれは緑ちゃんの事を悪く言うのはいやだと思ひ、私だつて妹の花のこと悪く言われたらいやなのに。

夏休みもあと二週間。夏休みの宿題は全然出来ていない。すみれとケンカしてからけつこう日数が経つてしまった。私が悪いと思ひ、す

みれの家の前に何度も行ったがやっぱり勇気が出なくて、いつも帰って来てしまった。それにすみれが二階のまどから私を見ているのを、見たことがあった。でも、目が合った時にはすぐにそらされてしまった。そのせいでよけいに勇気が出なかった。ある日、妹の花とトランプで遊んでいた時、

「あつ、そうだお姉ちゃん。今日、友達に手紙もらったんだよ。」
とその手紙を私に見せてくれた。その後、

「私も書くから、お姉ちゃん手伝って。」

と言われ、ふと思いついた。すみれが手紙を書くのが好きだと言っていたのを。私が花に

「ありがとう。」

と言つと、不思議そうに首をかしげていた。私はすぐに手紙を書くために、自分の部屋にもどり、いすにすわった。書き終わって、すみれの家のポストに入れに行こうとした時に私をお母さんがよんだ。

「夕ご飯、出来たわよ。」

時計を見ると書き出してから、三十分くらい経っていた。明日入れに行くことと決め、早めにねることにした。次の日、起きてすぐに、手紙を持って家を出た。すみれの家のポストに昨日書いた手紙を入れ、家に帰る。そして私は朝ご飯を作り出した。休みの日の朝は私がご飯を作る。朝ご飯を食べ終え今日も花と遊んでいるとインターフォンが鳴った。お母さんたちはもう仕事に行ったので私が出た。ドアを開けた先にいたのはすみれだった。私はあやまらないと、と思い

「この前はごめん。」

そう言った時、すみれも

「ごめんね。」

と言つて頭をさげた。私も同時に頭をさげたので、すみれと私はぶつかった。私はケンカしていたのをわすれて、笑った。すると、すみれも笑った。

「この前遊ぶ約束してたのわすれてごめん。」
そうすみれは言った。

「いや、私こそ緑ちゃんのこと悪く言っちゃった。許してくれる？」
と私が言うときすみれは

「もちろん。これからも仲良くしてね。」

と言つて許してくれた。でも私が宿題が進んで無い事を言うとき、
「すぐにやろう。」

と言われ、その日から毎日すみれは宿題を手伝ってくれた。そのおかげで夏休みぎりぎりだったけど間に合った。それからはたまにケンカする事もあったがずっとすみれとは親友で、前より仲良しになった。この夏休みの出来事がきっかけで、相手の気持ちを考えて自分の思った事を伝えられる親友になれた。

